

安全、安心、信頼の医療を

山形県立新庄病院だより

令和元年 10 月号



わかば

病院改築
特集!!

山形県立新庄病院

改築整備基本設計の概要



外観イメージ

令和5年度の開院に向けた新病院のかたちがまとまりました。

地域住民の皆様が利用しやすく、かつ、安心して安全な医療を提供できる新病院となるよう、職員一同が知恵を出し合い、検討を重ねてまいりました。

そして、このたび基本設計が完成しましたので概要をご報告します。

地域住民の皆様の新しい病院に対する大きな期待に応えることができるよう、令和5年度の開院に向けて、着実に取り組んでまいります。今後ともご支援くださるようお願いいたします。

新庄病院ホームページアドレスはこちら
<http://www.ysh.pref.yamagata.jp>



山形県立新庄病院 電話 0233-22-5525

〒996-0025 新庄市若葉町12-55



ヘルスケアモールイメージ

◀ 新病院の理念 ▶

「仁」、「愛」、「和」の心をもって、地域住民に信頼と安心を与える医療を提供し、最上二次保健医療圏唯一の中核病院としての使命を果たします。

1 整備方針

(1) 患者の療養環境に配慮した施設整備

- ・プライバシーに配慮した外来と病棟
- ・わかりやすく移動しやすい動線

(2) 最上地域唯一の基幹病院としての機能を備えた施設整備

- ・救急医療の向上に資する地域救命救急センターの整備
- ・災害拠点病院としての機能を維持できる構造と設備
- ・ヘリポート(地上)の整備

(3) 地域特性に適応した施設整備

- ・積雪に配慮した配置と施設
- ・県産材及び県産技術の活用

(4) 職員の働きがい・職場環境に配慮した施設整備

- ・院内保育所の整備
- ・連携が必要な部門の近接配置により動線を短縮するなど、働きやすさに配慮

(5) 開院後の健全経営を見据えた施設整備

- ・イニシャルコスト及び保全・改修費用を含むランニングコストの抑制に配慮
- ・将来の変化に対応できる配置と施設

新しい病院のかたちへ

2 配置計画

施設の場所 山形県新庄市金沢字中関屋地内 敷地面積 約56,400㎡

十分な駐車スペースの確保

- 患者用・職員用合わせて約850台の駐車場を整備します。
- 患者用駐車場は現病院よりも約200台分増えますので、駐車場不足は大きく改善されます。



身体障がい者等用駐車スペースの整備

- 雨・積雪の影響を受けずにエントランスまでアプローチできるように、屋根付の身体障がい者等用駐車場を整備します。

積雪等を考慮した施設整備

- 駐車場の外周部に除雪用雪溜を設け、冬季間の駐車場の確保に配慮します。
- 送迎車、バス、タクシーの利用に配慮し、正面玄関に屋根付きの乗降スペースを設置します。



水害への対策

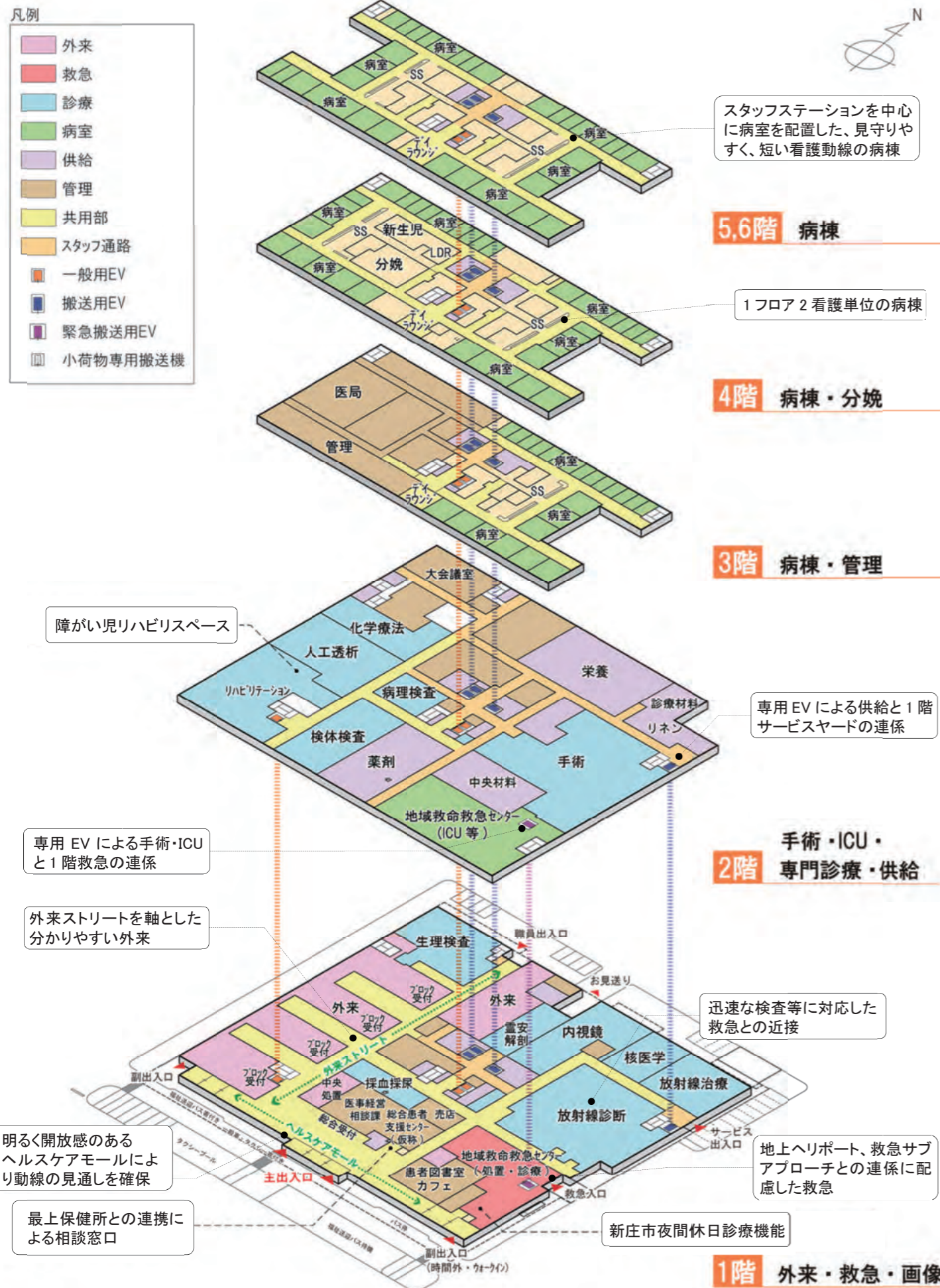
- 想定最大規模の水害の発生に伴う浸水に備え、敷地を約2m盛土し、外周部の一部に堤体盛土を設けます。

ヘリポートの整備

- ドクターヘリ等を活用した救急患者の迅速な搬送ができるように、敷地内にヘリポートを整備します。



3 平面計画



病床数 325床
 〔地域救命救急センター10床、地域包括ケア病床50床、その他一般病床261床、感染症病床4床〕

診療科(予定)
 内科、脳神経内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、小児科、外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、緩和ケア内科、腫瘍内科、血液内科、精神科・心療内科、歯科、救急科、リハビリテーション科、腎臓・内分泌内科、総合診療科(院内標榜)
 計27科(下線部は新病院で新設する診療科)

わかりやすく移動しやすい施設配置

- 外来受診時に院内で移動する負担が少なくなるように、外来部門と各種検査部門を1階に配置します。
- 病院運営で関連性の高い部門を近接配置し、患者及び職員、物の搬送の動線を短縮し、利用しやすい施設配置とします。



地域救命救急センターの整備

- 最上地域における救急医療の中核病院として、地域救命救急センターを整備し、24時間365日の救急医療を提供します。



快適な療養環境の提供

- 病棟は個室と4床室で構成し、プライバシーに配慮した病室とします。
- 多くの病室に洗面台とトイレを設置し、療養環境の向上を図ります。



総合患者支援センター(仮称)の設置

- 患者サポートを推進するため、各種相談や入退院支援の窓口を設置します。
- 安心してご相談できるよう、プライバシーに配慮した相談室を整備します。
- 最上保健所と連携して介護や福祉の相談窓口を設置し、総合的な相談支援を行います。



災害拠点病院としての機能維持

- 災害時にも医療活動の継続ができる電力供給設備や井水と市水を併用した給水設備などを整備します。



環境への配慮

- LEDを主体とした照明設備とします。
- 給湯熱源の一部にバイオマス(木チップ)を採用し、最上地域の資源を活用します。

4 建築概要等

延床面積 [病院棟] 約26,000㎡
 [エネルギーセンター棟] 約1,000㎡

構造階数 [病院棟] 地上6階 鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造 免震構造
 [エネルギーセンター棟] 地上2階 鉄骨造 耐震構造

その他 付属棟(院内保育所、車庫、倉庫等)、平面駐車場(約850台)、地上ヘリポート

【建設スケジュール】

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
設計	基本設計	実施設計				
工事			新病院建設工事・外構工事			開院

【概算事業費】

①用地調査・取得費	約8億円
②設計・監理費	約4億円
③新病院建設工事費	約150億円
④医療機器等整備費	約38億円
合計(税込)	約200億円

※計画の内容は、関係機関の指導や実施設計によって変更する場合があります。

～知ってほしい 病気のこと～

しんそうべんまくしょう 心臓弁膜症について

循環器内科医師

宮本 卓也



心臓弁膜症とは

心臓弁膜症とは、心臓の弁の働きが悪くなって心不全の原因となる病気です。心臓は血液を全身に運ぶポンプとして作用します。心臓のポンプは正確には4つのポンプ（右心房、右心室、左心房、左心室）で成り立っています。この4つのポンプの血液の通りを調節しているのが、実は弁です。各ポンプに合わせて、効率よく開閉します。弁の開閉が上手くいなくなると、ポンプ不全（＝心不全）となります。弁の働きは急に悪くなることは稀で、年齢とともに少しずつ働きが悪くなってきます。皮膚が年齢とともに張りがなくなってくるのと同じように、弁も硬くなって働きが悪くなってきます。

高齢者に多い病気です

65歳以上の約1割（軽症も含めた割合）に心臓弁膜症患者がいると考えられています。心不全症状が出てくるのは80歳前後が多くなっています。

実は詳しい原因はわかっていません

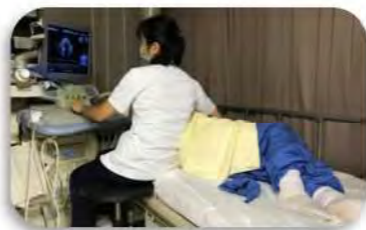
心臓弁膜症の詳しい原因はわかっていませんが、加齢が関与しています。リウマチ熱の後遺症で起こる弁膜症は激減しています。残念ながら、弁の働きを良くする薬はまだありません。

症状が出にくい病気です

重症化するまで無症状で経過します。数十年かけてゆっくり進行し、重症化すると、息切れ、動悸、胸痛、足のむくみ、失神などの自覚症状がでます。

もしかしたら心臓弁膜症？と思った方、特に80歳以上の方は、かかりつけの先生に相談するか、循環器内科を受診すると良いでしょう。聴診での見つけ、**心エコー検査**を行うことで診断することができます。

※心エコー検査の
様子



心臓弁膜症の治療は大きく3つに分かれます

- 1 お薬による治療（弁自体を良くするものではなく心臓の負担を取る治療です）
 - 2 人工弁に替える外科手術
 - 3 カテーテル治療
- ・カテーテル手術は高齢（概ね80歳以上）であるなどの理由で外科手術が難しい、と判断された場合に適応となります。カテーテル治療は全身麻酔ですが、外科手術に比べ体の負担は小さく、治療により症状が劇的に良くなって元気に生活している患者様が多数おられます。お気軽にぜひ、当院へご相談下さい。

～知ってほしい 病気のこと～

糖尿病の治療・療養について

糖尿病看護認定看護師 加藤 智華



糖尿病とは

血液中のブドウ糖が慢性的に多くなり血管を傷つけてしまう病気です。現在日本では糖尿病患者、予備軍を合わせて2千万人とされています。人口6人に1人の割合になります。

糖尿病は痛みや苦しさを伴わないことが多いため、健康診断で指摘されても受診しない場合や、治療を自己判断でやめてしまう場合があります。しかし長い間、高血糖の状態が続いてしまうと目や腎臓そして足などに合併症が現れることがあり、さらに脳や心臓の血管に影響し、命に危険をもたらします。合併症が進行しない為にも、早期に発見することや治療を継続することが重要です。

糖尿病の治療とは

食事療法と運動療法が基本になり、改善しない場合は薬物療法も行います。

- 1 食事療法（栄養バランスが良く、適正なエネルギー摂取量にします。）
 - ・中食や外食が多くなる場合でも選択の仕方、食べる量などを工夫します。
- 2 運動療法（目安は1日20分以上、週150分以上、なるべく食後1時間以内に行います。）
 - ・運動を行えない方も生活活動を増やすことで同じような効果を得ることができます。
- 3 薬物療法
 - ・医師の指示（決められた量、方法、タイミング）を守り服薬や注射を行いましょう。
 - 「薬を飲んでいるので大丈夫！」と全く食事に気をつけないという方もおられますが、服薬だけで血糖をコントロールする事は難しく、患者さん自身の療養行動が合併症の進行に大きく関係します。

療養のサポートについて

患者さんが糖尿病の療養行動を継続するには、個々の生活スタイルに合わせた調整方法を獲得することが大切です。その為には、病気や治療についての知識や技術の習得、取り組む気持ち、また周囲の人々の理解と支援が必要です。私達医療スタッフは、患者さんが療養行動を実践できるよう専門的な知識を提供し、お手伝いさせていただきます。内科外来では主にインスリン療法を行っている患者さんや合併症が現れ始めている患者さんを対象に療養指導を行っています。高齢でインスリン療法を行う場合では、インスリン注射の手技を確認するだけでなく、食事や生活活動の状況、家族の理解や支援が受けられているかなどをお聴きし、安全にインスリン療法が継続できるよう支援しています。また当院では糖尿病療養指導チームがあり、多職種で糖尿病教室の開催や勉強会などを行っています。最上地域でも糖尿病療養サポートチームが設立し、市民の方々への啓蒙活動や福祉医療スタッフを対象とした勉強会を開催するなど糖尿病の理解を深める取り組みを行っています。

病棟の変更のお知らせ

11月1日から、病床数及び病棟数を次のとおり変更いたします。

- 病床数： 388床 → 343床
- 病棟数： 8棟 → 7棟

これに伴い、10月から一部の入院患者様には病棟の移動をお願いすることがあります。

大変御迷惑をおかけしますが、御理解をいただきますようお願いいたします。

- **病棟、外来とも、診療科の変更はありません。**
- **変更後も入院の患者様をお断りすることがないよう、必要な病床数を確保しております。**

～外来休診のお知らせ～

院内電子カルテ等の更新整備のため、下記のとおり外来を休診します。

外来休診日 令和元年11月29日(金)

※ 救急患者の受け入れは、土・日・休日同様の対応となります。

ご迷惑をおかけしますが
ご協力のほどよろしく
お願いいたします。

【お問い合わせ：医事経営相談課】



あなたの善意を少し貸していただけませんか

・・・院内ボランティアの募集・・・



活動内容

- 外来診察においでの方
- * 患者さんの受付手続等の援助
- * 身体の不自由な方の援助
- * 患者さんの案内・誘導 等

活動時間等

- * 診療日の8時30分から11時30分
- * 活動日・活動時間はご相談に応じます。
- * 研修を行いますので、経験のない方もご活躍いただけます。

【お問合せ 総務課庶務係】

